

〈特集「情報構造と名詞述語文」他〉

## アヤクーチョ・ケチュア語における情報構造と名詞述語文 Information Structure and Nominal Predicate Sentences in Ayacucho Quechua

諸隈 夕子  
Yuko Morokuma

弘前大学人文社会科学部  
Faculty of Humanities and Social Sciences, Hirosaki University

**要旨:** 本稿は、特集「情報構造と名詞述語文」(『語学研究所論集』第21号, 2016, 東京外国語大学)における調査項目について、アヤクーチョ・ケチュア語における調査結果を記述するものである。

**Abstract:** The purpose of this paper is to offer the data in Ayacucho Quechua for the research question for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 21, which focuses on the cross-linguistic study of 'Information structure and nominal predicate sentences'.

**DOI:** <https://doi.org/10.15026/0002001501>

**キーワード:** 情報構造, 名詞述語文, ケチュア語

**Keywords:** information structure, nominal predicate sentences, Quechuan languages

### 1. はじめに

本稿では、特集「情報構造と名詞述語文」(『語学研究所論集』第21号, 2016, 東京外国語大学)の質問票を用いた聞き取り調査の結果に基づき、アヤクーチョ・ケチュア語における名詞述語文で用いられる情報構造標示の文法的特徴を記述する。

ケチュア諸語は、主題標示-*qa*、焦点標示-*m(i)*, -*s(i)*<sup>1</sup>をはじめとする、情報構造標示と分析される接尾辞<sup>2</sup>を持つ。中でも焦点標示-*m(i)*, -*s(i)*は証拠性によって使い分けられ、-*m(i)*は一次情報、-*s(i)*は伝聞の証拠性標示を兼ねた焦点標示とされる (Muysken 1995; Sánchez 2010 など)。

しかし、ケチュア諸語の一変種であるアヤクーチョ・ケチュア語において、これらの標示が情報構造標示として機能しているとは考え難い例も散見される。この変種に注目した文法記述である Parker (1969) および Zariquiey & Córdova (2008) において、-*m(i)*は「その節内で最も重要な情報であり、主題と関連することが多い」(Parker 1969: 82), 「その文中で最も重要な、強調したいもの」(Zariquiey & Córdova 2008: 104)と記述されているが、焦点標示とは明記されていない。一方-*qa*は両者において主題標示として記述されている (Parker 1969: 84; Zariquiey & Córdova 2008: 106) が、筆者のこれまでの調査においては、主題とは考え難い要素に-*qa*が接続する例が散見されている。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> 母音の直後では-*m*, -*s*, 子音の直後では-*mi*, -*si*の異形態を取る。

<sup>2</sup> 接続する品詞を問わない点から接語と分析するのが一般的だが、アヤクーチョ・ケチュア語における接尾辞と接語の区別については本稿の趣旨からは逸脱するため、便宜的に接尾辞として記述する。

このような背景から、本調査においては主に-*qa* および-*m(i)* の位置に注目して聞き取りを行った。主なコンサルタントはアヤクーチョ在住の60代女性である。加えて、アヤクーチョ・ケチュア語の使用域に隣接するアプリアク県出身の話者である女性1人を中心に補助的な調査を行った<sup>3</sup>。

調査にあたっては、筆者が質問票の例文（スペイン語での調査結果：川上・アラストゥルエイ 2016）をコンサルタントに提示し、ケチュア語への翻訳をお願いした。媒介言語はスペイン語である。なお、例文については、対応するケチュア語の単語が思い出せないなどの理由で、名詞・形容詞の差し替えなど調査趣旨を損なわない程度の変更を行ったものがある。

## 2. 調査結果

調査の結果、以下の点が明らかになった。まず、アヤクーチョ・ケチュア語の名詞述語文においては、-*qa* および-*m(i)*が接続する句は概ねそれぞれ主題、焦点にあたると言えるが、明らかに主題でない句に-*qa*, 焦点でない句に-*m(i)*が接続する例も見られた。さらに、主題または焦点にあたる句であっても-*qa*, -*m(i)*が接続しない例も一定数見られた。例えば、疑問詞疑問文の疑問詞に対応する句には-*m(i)*が接続しないことがあった。

特に-*m(i)*は、全ての焦点を標示するのではなく焦点の中でも一部のサブグループを標示する可能性が示唆される。Zariquiey & Córdova (2008: 104) は、極性疑問文への答えでは-*m(i)*が義務的に用いられる<sup>4</sup>としている。本調査で用いた極性疑問文への答えにおいては、全て疑問のスコープに対応する句に接続していた。特に、極性疑問文に否定で答える例では、3例中3例において複数の句の中で疑問のスコープに対応する句に-*m(i)*が接続しており、-*m(i)*は少なくとも訂正のスコープを標示すると分析できる。

-*m(i)*の現れる位置に関連して、極性疑問文における疑問のスコープを標示するとされる接尾辞-*chu*も、疑問のスコープに相当しない句に接続することがあった。一方で-*m(i)*は極性疑問文における-*chu*の出現位置によらず、文脈上疑問のスコープに対応する句に接続しており、-*m(i)*の出現位置と-*chu*の出現位置は必ずしも対応しないことがわかった。

最後に、-*m(i)*, -*qa*といった接尾辞ではなく、語順が主題・焦点関係に対応する例が見られる。この点については、本研究における聞き取りの手法がスペイン語例文からの翻訳である都合上、スペイン語の語順の影響を受けている可能性があり、追加調査が求められる。

以下は各例文の調査結果である。

<sup>3</sup> 調査中に近くにいる他の話者が回答や助言をする場合が多々あった。これらの助言者、回答者と直接の調査協力者の間で合意が取れた回答を本稿では記述する。調査協力者、助言者、回答者は全員アヤクーチョ市内の商業施設の従業者である。

<sup>4</sup> -*m(i)*が疑問のスコープに対応する句に義務的に接続するかについては明言されていないが、該当箇所では全て疑問のスコープに対応する句に-*m(i)*が接続している。

- 8-1 えっ, A (固有名詞) が来たの? / いや, A じゃなくて B が来たんだ.  
 (例えば, 昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)  
 ¿Eh? ¿Vino Ichiro? –No, es Jiro el que vino, no Ichiro.

- (1) a. *Hamu-ru-ña-chu Antonio?*  
 come-PST1<sup>5</sup>-COMPL-Q/NEG PN  
 「アントニオが来たのですか?」

- b. *Mana-m Antonio-chu hamu-n.*  
 NEG-FOC PN-Q/NEG come-3SG  
 「アントニオは来ていません」

- Bruno-m hamu-ru-n-ña.*  
 PN-FOC come-PST1-3SG-COMPL  
 「ブルーノが来ました」

*-chu* は疑問文においては疑問のスコープ, 否定文においては否定のスコープとなる要素を標示する (Parker 1969: 81; Zariquiey & Córdova 2008: 104–106) 接尾辞である. しかし, (1)a においては文脈上明らかに疑問のスコープである *Antonio* ではなく述語 *Hamu-ru-ña* に接続している. 一方で, 返答である (1)b では否定のスコープである *Antonio* に *-chu* が接続している.

(1)b において, *-m(i)* は否定辞 *mana* および疑問のスコープに対応する *Bruno* に接続している. *-m(i)* は否定文の場合否定辞 *mana* に接続すると指摘されており, 本調査の結果においても *mana* には常に接続していた.

- 8-2 誰が来たの? / A が来たよ.  
 ¿Quién ha venido? —(Ha venido) Ichiro.

- (2) a. *Pi-taq hamu-rú<sup>6</sup>-n?*  
 who-CONTR come-PST1-3SG  
 「誰が来たのですか?」

- b. *Antonio-m.*  
 PN-FOC  
 「アントニオです」

<sup>5</sup> *-r(q)u* は先行研究 (Parker 1969: 67; Zariquiey & Córdova 2008: 175) においては外に向かう方向性や乱暴さ・驚き・緊急性・利己性などを表すとされ, 過去時制の標示としては記述されていない. これらの先行研究で過去時制標示として記述されているのは *-r(q)a* および *-sqa* である. 一方, 本稿の調査協力者ではないアヤクーチョ・ケチュア語の話者は, *-r(q)u* はスペイン語の点過去, *-r(q)a* はスペイン語の線過去に相当すると述べており, 実際に過去の出来事を表現する文には *-r(q)u* が頻繁に現れる. このことから, 本稿では *-r(q)u*, *-r(q)a* の両者を過去標示と見なし, 番号で区別する.

<sup>6</sup> 本稿のアクセント記号は, 以下の場合に用いる. ①: スペイン語からの借用語で, スペイン語の表記においてアクセント記号が必要な場合. ②: ①以外の場合で, アヤクーチョ・ケチュア語のアクセント規則において例外的なアクセントを取る場合.

(2)bにおいては(2)aの疑問のスコープに対する答えにあたる *Antonio* に *-m(i)* が接続している。したがって(2)bにおける *-m(i)* は焦点を標示していると解釈可能であるが、(2)bは *Antonio(-m)* 以外に句を持たないため、断定は不可能である。

*-taq* は「一方で」「であれば」「または」といった意味<sup>7</sup>を表す一方で、疑問詞疑問文においては疑問詞に接続し、翻訳可能な意味を持たない (Parker 1969: 81) あるいは丁寧さを表現する (Zariquiey & Córdova 2008: 100) とされる。本調査の結果においても、*-taq* は全て疑問詞に接続する形で使用された。

(2)aにおいてはアクセント位置の移動が観察される。アヤクーチョ・ケチュア語においては原則語末から2番目の音節がアクセントを持つが、(2)aではアクセント位置が語末に移動している。このように極性疑問文でアクセント位置が移動する例が本調査の結果では散見された。

8-3 Aのほうが大きいんじゃないの? / いや, A じゃなくて, Bのほうが大きいんだよ.  
¿No es Ichiro más alto? —No, Jiro es más alto.

(3) a. *Antonio-chu (más<sup>8</sup>) hatun runa?*  
PN-Q/NEG more big man  
「アントニオが(より)背の高い人ですよ?」

b. *Mana-m, Bruno-m más hatun runa-qa.*  
NEG-FOC PN-FOC more big man-TOP  
「いいえ, より背の高い人はブルーノです」

(3)aでは疑問のスコープである *Antonio* に *-chu* が接続し、(3)bでは *Antonio* を訂正する形で疑問のスコープに対応する *Bruno* に *-m(i)* が接続している。

(*más*) *hatun runa* 「(より)背の高い人」は(3)a, bにおいて主題と解釈可能であるが、(3)aでは *-qa* が接続せず、(3)bでは接続していた。

8-4 (電話で) どうしたの? / うん, 今, お客さんが来たんだ.  
¿Qué pasa? —Nada, que ha venido un cliente.

(4) a. *Ima-taq ka-chka-n?*  
what-CONTR be-PROG-3SG  
「どうしましたか?」 (Lit. 「何がありますか?」)

b. *Mana-m ima(-pas)-chu.*  
NEG-FOC what(-ADD)-Q/NEG  
「何でもありません」 (Lit. 「何でもありません」)

<sup>7</sup> Zariquiey & Córdova (2008: 108) ではこの機能を以て「対比性接尾辞 (*sufijo contrastivo*)」と呼んでいるため、本稿におけるグロスには CONTR(contrastive) を採用している。ただし、当該箇所において情報構造分析における対比の定義との関連性は述べられていない。

<sup>8</sup> 本稿では人名以外のスペイン語からの借用語を下線で示す。

*Huk ranti-q runa hamu-ru-n.*  
 NUM.1 buy-NMLZ.AG man come-PST1-3SG  
 「お客さん(購買者)がきました」

(4)b では否定辞 *mana* 以外に *-m(i)* は接続しなかった.

8-5 あの子供が A を叩いたんだって!?!/いや, A じゃなくて, B を叩いたんだよ.  
 ¿Que ese niño ha pegado a Ichiro? —No, a Ichiro no; ha sido a Jiro (al que ha pegado).

(5) a. *Chay warma(-chu) maqa-ru-n Antonio-ta(²-chu)?*  
 that boy(-Q/NEG) hit-PST1-3SG PN-ACC(-Q)  
 「その子供がアントニオを殴ったのですね?」

b. *Mana-m (Antonio-ta-chu), chay warma-qa maqa-ru-n Bruno-ta-m.*  
 NEG-FOC (PN-ACC-Q/NEG) that boy-TOP hit-PST1-3SG PN-ACC-FOC  
 「いいえ, (アントニオをではありません.) その子供はブルーノを殴りました」

(5)a においては, (1)a と同様に, 文脈上明らかに疑問のスコープである *Antonio(-ta)* 「アントニオ (を)」に *-chu* が接続しなかった. 追加質問で *-chu* が *Antonio(-ta)* に接続した文の容認度を確認したところ, 不自然と回答された. これが *warma* 「子供」についての疑問文であることを強調するためには, (6) のような表現が自然と回答された.

(6) *Chay warma-m-iki maqa-ru-n Antonio-ta-qa?*  
 that boy-FOC-POL HIT-PST1-3SG PN-ACC-TOP  
 「アントニオはその子供が殴ったのですね?」

(6) では, *warma* 「子供」に *-m(i)* と「軽い謝意, 謙虚さ」を標示する (Parker 1969: 84)<sup>9</sup> *-iki* が接続している. 加えて, 疑問のスコープである *Antonio(-ta)* には *-chu* の代わりに *-qa* が接続している.

本調査において極性疑問文にあたる (1)a, (3)a, (5)a は共に *-chu* が接続する句が文頭に置かれており, 少なくとも本調査の結果からは極性疑問文における *-chu* は文頭の句に接続する疑問マーカーと解釈するのが妥当である.

8-6 赤いカバンと白いカバン (調査票: 赤い袋と青い袋) があるけど, どっちを買うの?  
 / (私は) 白いカバンを買うよ.  
 Hay una bolsa roja y otra azul; ¿cuál vas a comprar? —Voy a comprar la azul.

(7) a. *Ka-chka-n puka wayqa y yuraq(/ruyaq) wayqa.*  
 be-PROG-3SG red bag and white bag  
 「赤いカバンと白いカバンがあります」

<sup>9</sup> 具体的な意味として, 「大まかには『とにかく』『では』『もちろん』と訳せる」 (“... is roughly translatable as ‘anyway’, ‘well, ...’, or ‘of course’.”) と記述されている.

*Mayqin-taq ranti-nki?*  
 which-CONTR buy-2SG  
 「どちらをみますか？」

b. *Ranti-saq yuraq wayqa-ta.*  
 buy-1SG.FUT white bag-ACC  
 「白いカバンをみます」

(7)bにおける *yuraq wayqa(-ta)*「白いカバン (を)」は選択肢が限定された疑問詞疑問文への答えであり、焦点にあたるが、*-m(i)* は接続しなかった。

8-7 Aはどこですか？／Aは朝からどっかへでかけたよ。  
 (例えば、朝少し遅く起きて来たAの父親が、姿の見えないAについて母親に尋ねている  
 場面で)  
 ¿Dónde está Ichiro? —Ha salido a algún sitio esta mañana.

(8) a. *May-pi-taq ka-chka-n Antonio?*  
 where-LOC-CONTR be-PROG-3SG PN  
 「アントニオはどこにいますか？」

b. *Ñaqa punchaw llusqi-chka-ra.*  
 a moment ago day exit-PROG-PST2  
 「少し前の日中に出かけています」

(7)bでは(7)aの疑問詞 *may(-pi)*「どこ (に)」に対応する名詞句が出現しておらず、*-m(i)* も用いられなかった。

8-8 (あの子供は)誰を叩いたの？／(あの子供は)自分の弟を叩いたんだ。  
 ¿A quién ha pegado? —(Ha pegado) a su propio hermano.

(9) a. *Pi-ta-taq chay warma maqa-rú-n?*  
 who-ACC-CONTR that boy hit-PST1-3SG  
 「誰をその子供が叩いたのですか？」

b. *chay warma(-qa) maqa-ru-n(-qa) wawqi-lla-n-ta.*  
 that boy(-TOP) hit-PST1-3SG(-TOP) brother-only-3SG.POSS-ACC  
 「その子供が叩いたのは自分の兄弟です。/その子供は自分の兄弟を叩きました」

(9)bにおける *wawqillanta*「彼の兄弟 (を)」は疑問詞疑問文への答えであり、焦点にあたるが、(7)bと同様に*-m(i)* は接続しなかった。*-qa*は *chay warma*「その子供」と *maqa-ru-n*「叩いた」のどちらにも接続可能である。加えて、(9)aでは(2)aと同様にアクセントの位置が語末に移動している。

- 8-9 (電話で) どうしたの)? / うん, A が (自分の) 弟を叩いたんだ.  
 (例えば, 電話の向こうで子供の泣き声がかきたのを聞いての発話)  
 ¿Qué ha pasado? —Que Ichiro ha pegado a su propio hermano.

- (10) a. *Ima-taq ka-chka-n?*  
 what-CONTR be-PROG-3SG  
 「どうしましたか?」(LIT. 「何がありますか?」)
- b. *Antonio-qa maqa-ru-n wawqi-lla-n-ta.*  
 PN-TOP hit-PST1-3SG brother-only-3SG.POSS-ACC  
 「アントニオは彼の兄弟を叩きました」

-qa は主題を標示する接尾辞とされるが, (10)b では文脈上主題とは考えにくい *Antonio* に接続している. 加えて, (10)b では -m(i) が用いられなかった.

- 8-10 あのパン (調査票: ケーキ), どうした? / (ああ, あれは) A が食べちゃったよ.  
 ¿Qué ha pasado con ese pastel? —Ah, que Ichiro se lo ha comido.

- (11) a. *Ima-taq ka-chka-n chay tanta-wan-qa?*  
 what-CONTR be-PROG-3SG that bread-COM-TOP  
 「そのパンには何があったのですか?」
- b. *Antonio(<sup>?</sup>-m<sup>?</sup>-m-iki) miku(-ku)-ru-n chay tanta-ta.*  
 PN(-FOC/-FOC-POL) eat(-REFL)-PST1-3SG that bread-ACC  
 「アントニオがそのパンを食べました」

(11)b では (11)a の疑問詞 *Ima* 「何」に直接対応する句は出現しておらず, (11)b の文全体が疑問詞に対応すると言える. しかし, (11)b において -m(i) は用いられなかった. 加えて, 主題と解釈可能な *chay tanta(-ta)* 「そのパン (を)」に -qa は接続しなかった.

- 8-11 私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ.  
 Este libro es el que compré ayer en la tienda.

- (12) *Kay libro-m ranti-sqa-y qayni punchaw kay tienda-pi.*  
 this book-FOC buy-NMLZ.NFUT-1SG.POSS yesterday day this store-LOC  
 「私が昨日この店で買ったのはこの本です」

(12) では分裂文の焦点句にあたる *kay libro* 「この本」に -m(i) が接続している. 一方で, -qa は用いられなかった.

なお, (12) は *Kay libro* 「この本」が主語となるよう再質問して得られた回答である. 再質問前の回答は (13) である.

- (13) *Kay libro-ta ranti-ni qayni punchaw kay tienda-pi.*  
 this book-ACC buy-1SG yesterday day this store-LOC  
 「この本を私は昨日この店で買いました」

8-12 あの人は先生だ。この学校でもう3年働いている。  
 Ese hombre es profesor. Lleva ya tres años trabajando en esta escuela.

- (14) *Kay runa yacha-chi-q.*  
 this man know-CAUS-NMLZ.AG  
 「この人は先生です」

*Kimsa wata-ña yacha-chi-n kay yachaywasi-pi.*  
 NUM.3 year-COMPL know-CAUS-3SG this school-LOC  
 「もう3年もこの学校で教えています」

Zariquiey & Córdova (2008: 84) では三人称単数が主語となるコピュラ文ではコピュラ動詞 *ka* の代わりに *-m(i)* を用いるとしている。しかし、(14) の前半部分 *Kay runa yacha-chi-q* 「この人は先生です」では明らかにコピュラ文であるにもかかわらず *-m(i)* が用いられなかった。併せて、*-qa* もこの例では用いられなかった。

8-13 彼のお父さんは、あの人だ。  
 Su padre es ese hombre.

- (15) *Tayta-n-mi chay runa(-qa).*  
 father-3SG.POSS-FOC that man(-TOP)  
 「彼/彼女のお父さんです。その人は」

8-14 あの人が彼のお父さんだ。  
 Ese hombre es su padre.

- (16) *Chay runa-qa tayta-n-mi.*  
 that man(-TOP) father-3SG.POSS-FOC  
 「その人は彼/彼女のお父さんです」

(15) と (16) で *-m(i)* と *-qa* の位置は変わらず、代わりに語順が変化している。

8-15 あさってっていうのはね、明日の次の日のことだよ。  
 Pasado mañana significa (es) el día después de mañana.

- (17) *Kunan-ta-hina paqarin-mincha.*  
 today-ACC-like.that tomorrow-day.after.tomorrow  
 「明日と明後日の関係は今日 (に対する明日?) のようなものである」

何故このような表現になるかは不明である。(17) はコピュラ文であるが, *-m(i)* も *-qa* も用いられなかった。

8-16 (何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて) 私はコーヒーだ。  
Para mí, un café.

(18) *Ñuqa(-man) cafey-ta*  
1SG.PRON(-DAT) coffee-ACC  
「私 (に) はコーヒーを」

(18) では *-qa* も *-m(i)* も用いられなかった。なお, (18) は動詞を用いない表現が可能か再質問して得られた回答である。再質問前の回答は (19) (20) である。

(19) *Qu-yku-wa-y cafe.*  
give-down-1SG.OBJ-IMP coffee  
「私にコーヒーをください」

(20) *Ñuqa muna-ni cafey-ta.*  
1SG.PRON want-1SG coffee-ACC  
「私はコーヒーが欲しいです」

8-17 [(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか?との問いに]  
コーヒーは私だ。  
El café es para mí.

(21) *Ñuqa-paq cafey-ta.*  
1SG.PRON-BEN coffee-ACC  
「私のためにコーヒーを」

(18) と同様に, (21) では *-qa* も *-m(i)* も用いられなかった。なお, (21) も動詞を用いない表現が可能か再質問して得られた回答である。再質問前の回答は (22) である。

(22) *Ñuqa muna-ni toma-y-ta cafey-ta.*  
1SG.PRON want-1SG take-INF-ACC coffee-ACC  
「私はコーヒーを飲みたいです」

8-18 その新しくて厚い本は (値段が) 高い。  
Ese libro nuevo y grueso es caro.

(23) *Chay libro raku musuq caro-lla-ña.*  
that book thick new expensive-only-COMPL  
「その厚くて新しい本は高い」

(14) と同様, (23) は明らかにコピュラ文であるにもかかわらず *-m(i)* が用いられなかった.

8-19 (砂糖入れを開けて) あっ, 砂糖が無くなっているよ!  
¡Ah, se ha acabado el azúcar!

(24) *Ay, tuku-ru-n-ña-m miski-na-nchik.*  
INTERJ end-PST1-3SG-COMPL-FOC sweeten-NMLZ.FUT-1PL.INCL.POSS  
「あっ, 私たちの砂糖がすでに終わってしまった」

(24) では述語 *tuku-ru-n-ña* 「すでに終わってしまった」に *-m(i)* が接続している. *-qa* は用いられなかった.

8-20 午後, 誰かに会うはずだったなあ. 誰だったっけ? あっ, そうだ, ~君だったな.  
Por la tarde tenía que ver a alguien... ¿Quién era? ¡Ah, sí! Era Tanaka.

(25) *Kay chinka-yku-q punchaw-ta tupa-na-y ka-rqa huk runa-wan.*  
this lose-down-NMLZ.AG day-ACC meet-NMLZ.FUT-1SG.POSS be-PST2 NUM.1 man-COM  
「この午後に私はある人と会わなければいけなかった」

*Pi-taq ka-rqa chay runa-qa?*  
who-CONTR be-PST2 that man-TOP  
「その人は誰だっただろうか?」

*Mana-m, chay runa-qa ka-rqa Antonio.*  
NEG-FOC that man-TOP be-PST2 PN  
「いえ, その人はアントニオだった」

(25) では主題にあたる *runa* 「人」および *chay runa* 「その人」に *-qa* が接続している. 一方で, *-m(i)* は否定辞 *mana* への接続以外では用いられなかった.

略号一覧

ADD	additive	AG	agent	ACC	accusative
CAUS	causative	COM	comitative	COMPL	completive
CONTR	contrast	DAT	dative	FUT	future
IMP	imperative	INCL	inclusive	INF	infinitive
INTERJ	interjection	LOC	locative	NEG	negative
NFUT	nonfuture	NMLZ	nominalizer	NUM	numeral
OBJ	object	PL	plural	POL	politeness
PN	proper name	POSS	possessive	PROG	progressive
PRON	pronoun	PST1	past (-rqu)	PST2	past (-rqa)
Q	question marker	REFL	reflexive	SG	singular
TOP	topic	1	1st person	2	2nd person
3	3rd person				

参考文献

- Muysken, Pieter. 1995. Focus in Quechua. In Katalin É Kiss (ed.), *Discourse Configurational Languages*, 375–392. Oxford University Press.
- Parker, Gary John. 1969. *Ayacucho Quechua Grammar and Dictionary*. The Hague: Mouton.
- Sánchez, Liliana. 2010. *The Morphology and Syntax of Topic and Focus: Minimalist inquiries in the Quechua periphery*. John Benjamins.
- Zariquiey, Roberto & Gavina Córdova. 2008. *Qayna, Kunan, Paqarin. Una Introducción Práctica al Quechua Chanca*. San Miguel: Pontificia Universidad Católica del Perú.
- 川上茂信, チャビ・アラストゥルエイ. 2016. 「スペイン語 (データ: 「情報構造と名詞述語文」)」『語学研究所論集』21 (2016 年度号), Article 4.

執筆者連絡先 : y.ukumari322@gmail.com

原稿受理 : 2026 年 1 月 24 日

刊行年月日 : 2026 年 3 月 31 日